

「子供の未来応援フォーラムin東京」活動発表



子どもの未来に向けて

認定NPO法人市民セクターよこはま 吉原明香

「誰もが自分らしく暮らせるまちづくり」



● 目指す社会ビジョン

- 自立した個人 -

自らを尊び、互いを認め合う

- 支え合う地域 -

自ら行動する
市民が、ネット
ワークで支え
合う地域

- 暮らしやすい社会 -

すべての一人ひとりの人の暮らしと政策がつながる社会

このスピリットが世代を超えて受けつがれ、拡がり、自立した個人・支え合う地域・暮らしやすい社会へとつながっていくために、できることを考え・実行すること、これが当法人のミッション

主な事業

■ 地域支援部門

- まちかど（認知症）ケア事業〔2004～〕
※キャラバンメイト事務局、認知症カフェ設立講座など
- 福祉サービス第三者評価事業〔2004～〕
※保育園や障害者施設などの評価
- よこはま地域づくり大学校〔2009～〕
※自治会町内会の各種取り組みや居場所づくりなどを支援する連続講座

■ 市民活動支援部門

- にしく市民活動支援センター運営〔2014～〕
- 横浜市市民活動支援センター運営〔2009～〕

多くのNPO法人・行政・企業とネットワークを持つのが強みです！

【団体】

六浦東・まち交流ステーション

NPO法人あしほ

**NPO法人アーモンド
コミュニティネットワーク**

NPO法人パノラマ

NPO法人てらこや

ネットワーク

**NPO法人フェアスタート
サポート**

【企業】

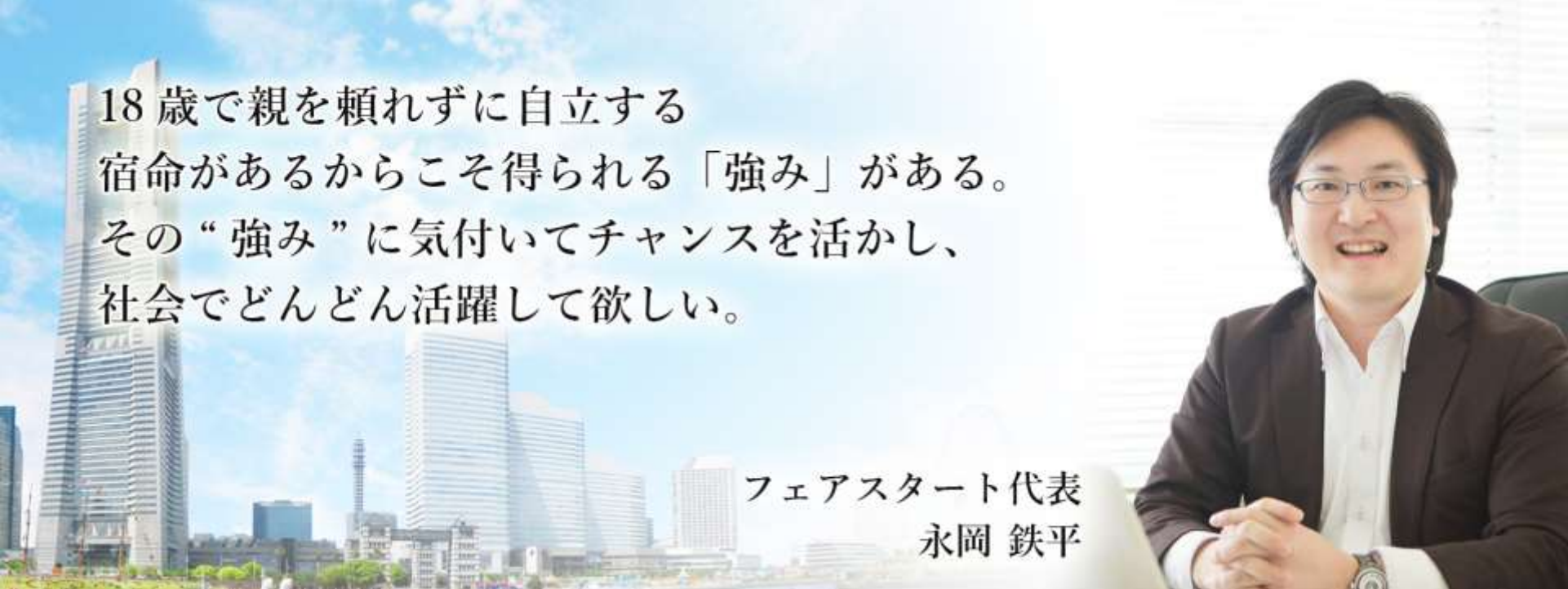
横浜サンミラー株式会社

株式会社バリューブックス

2017年

子供の貧困対策 マッチング・フォーラム
(横浜開催) 内閣府主催





18歳で親を頼れずに自立する
宿命があるからこそ得られる「強み」がある。
その“強み”に気付いてチャンスを活かし、
社会でどんどん活躍して欲しい。

フェアスタート代表
永岡 鉄平

NPO法人フェア
スタートサポート

2017年
子どもの貧困対策マッチング・フォーラム
「その後」をインタビューしました！

フェアスタートサポート代表永岡さん 毎日新聞「言論」寄稿文(2019.2/4)冒頭より

児童養護施設で育ち、高校を卒業して社会に巣立つ若者たちは、年間1000人を超える。頼れる親を持たず、18歳前後で就労する彼らや彼女らは、社会においては少数派かもしれない。それゆえに、就職にあたっては丁寧なケアが欠かせない。一人一人をきちんと社会に送り出せる環境づくりが必要だ。

少子化社会の中、人手不足で採用難に苦しむ中小企業もあり、高卒に対する求人は多くある。一方で心配なこともある。

2017年発表の東京都の調査では、都内の児童養護施設を出て就職した人のうちほぼ半数は最初に勤めた会社を辞める・・・

2017年事業報告より抜粋

神奈川、東京以外の関東圏における、地域の施設と企業とのコーディネート事業

- 内容 千葉、埼玉、栃木、群馬、茨城、静岡県内の児童養護施設とその地域の企業の関係作りのために、交流会や見学会を開催する。
- 施設と企業が繋がりを持つことで、相互理解が深まり、入所児童への就職支援の幅が広がる。
- 児童養護施設の高校生と企業の交流会等の実施 2017年度12回
- 場所：各児童養護施設、企業等
- 受益対象者：神奈川・東京以外の関東圏の児童養護施設や地域の企業
- 実績人数 216 人 ● 支出額 3,023,415 円

3年取り組んで、群馬と 栃木で花開きつつある！

子どもたちが地元企業に就職し始めている。(7人)

【うまくいった要素】

- ・ 職業選択のクオリティが高い（主体的な選択）
- ・ 仲介役として、中小企業家同友会との二人三脚が実現
- ・ エリアが近いので、養護施設職員・中堅企業経営者・就職する子どもの顔の見える関係が作りやすく
就職後の★お互いのフォローがしやすい

企業の皆さん、工場などはどこにありますか？



経営者や同友会が本気になった背景

- 人手不足の深刻さ
- 人材の県外流出の問題
- 子どもたちへのケアが足りず、貧困の連鎖に陥っていく現状を知るにつけ・・・

ペイン[★](痛み：家庭環境で苦勞してきた子どもたち)
をもつ子どもたちの本当の価値を知ったこと[★]



フェアスタートサポートさんの切なる願い

養護施設の子どもたちに、「働く大人」 特に「苦労も含めて楽しく働く大人」を見て感じて「働くこと」の対してポジティブな価値観が醸成されるようにしていきたい。

なぜなら、親世代からはネガティブな価値観を浴びている例も多く、価値観の上書き、醸成が必要と本当に思う。

キャリア教育のプログラム実施に興味のある、また人材獲得に興味のある方々、説明の機会をください！



NPO法人アーモンドコミュニティネットワーク

理事長の水谷さんへフォーラムのその後をインタビューしました！

マッチングフォーラムをきっかけに、
子ども食堂立ち上げをいっしょに
やってくれる方と出会い本当に良かった！

by水谷理事長



アーモンドホープセンター
(子ども食堂・アート活動 他)

青少年の不登校やひきこもりの問題、子どもの貧困の問題、外国につながる家庭の問題といった「生きづらさ」を抱える子ども青少年の問題を地域で支える活動

「相手の話をより良く聴くこと」「傾聴活動」を土台とした支援事業を行い、
市民が孤立することのない共生の社会と平和なコミュニティの実現。「傾聴ワーカー」の育成。

ターニングポイント

2017年2月に教育機会確保法が全面施行

学校復帰を前提にした従来の不登校対策を転換し、不登校の子どもに学校以外での多様な学びの場を提供することを目的とした法律。

NPO等民間のフリースクールや公立の教育支援センターなどで学習の機会と場を確保する施策を国と自治体の責務とした。

- 昨年あたりから各段に学校との連携がしやすくなった。
子ども一人一人について、学校の先生とアーモンドの両方で生活と学習をみていかれるようになった。

一方で気になっていること・・・

人口動態統計 15～39歳の死因は自殺が1位。（2012年～）

厚生労働省がまとめた2017年の人口動態統計で、戦後初めて日本人の10～14歳の死因として自殺が1位になっていたことが分かった。

- いじめ問題だけでなく、子どもの貧困率7人に1人という現実や外国につながる子どもの増加や勉強についていけない子どもたちの増加も、背景にあるように思えてならない。
- 子どもは手間暇かければ、みんな伸びていく力をもっている。でも先生も忙しく、ついていけない子どもに対応する余裕がますますなくなっているように思える。

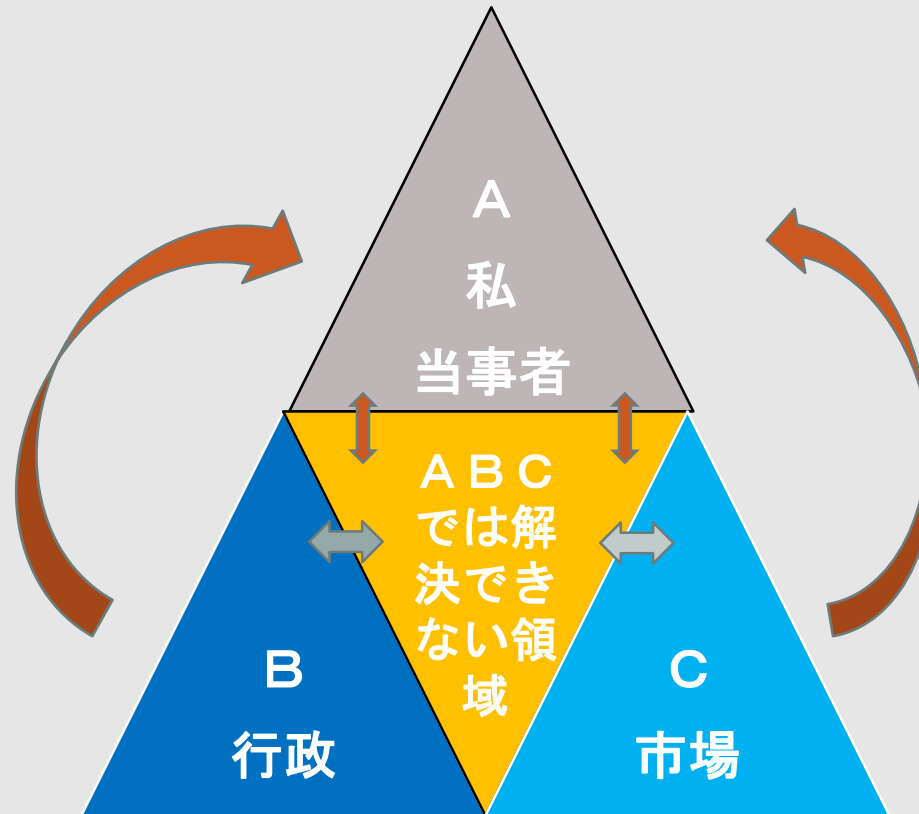
アーモンドコミュニティネットワークさんの切なる願い

企業の方々へ

社員が積極的に、NPO活動や地域活動に関われるよう
「働き方改革」をますます推進し、社員がインフォーマルな
活動に主体的に参加できる環境を整えることをビジョンに！

理由：皆さんもほかの社員も実は暮らしのニーズを抱えている当事者。
制度やお金で解決できないことも、多くあるはずです。
それを解決していく手段はインフォーマルな領域に多くの方が
参画していくこと以外には、道はないから。
たとえば、子どもの伸びる力を信じて、勉強を教えるなどの
活動に、働いている人たちの力が入りやすくなりますように・・・。

中間支援組織として、思うこと



横浜では、市内20か所程度で地域課題解決の視点から、中小企業経営者やNPO、地域施設などを中心にリビングラボが進展中

当法人では、このような観点から（株）NTTドコモさまと認知症をテーマとするインフォーマル活動を支援する協業に取り組中

暮らしのニーズ解決方法

企業の皆さまとインフォーマルな領域が
CSR・CSV・SDGs とsociety5.0の両立などを
キーワードに少しずつ近づいてきていますが、
それは、どこかの誰かではなくて
みなさんや、一人ひとりの社員の暮らしの
ニーズを豊かに解決していく道でもある